

「記事は5W1H」

伊平屋小児童 新聞作り学ぶ

琉球新報記者による出前講座「おでかけりゅうPON」



N」が13日、伊平屋村立伊平屋小学校(堀越泉校長、児童数98人)で開かれ、4年生から6年生までの54人が新聞作りや記者の仕事について学んだ。講座の内容を伝える速報が、りゅうちゃん号で作られ、参加児童一人一人に配られた。

講座は「いつ」「どこで」



「おでかけりゅうPON!」のワークショップで、記者の仕事に挑戦する伊平屋小の児童たち＝13日、伊平屋村立伊平屋小学校

「誰が」「何をした」などの5W1H、大事なことを先に書く逆三角形など、記事を書く上での決まり事を説明。児童らは、実際に新聞を

めぐりながら興味を広げ、目を輝かせた。

6年の譜久村有珠さん(12)は「新聞記者になるのが夢。大切な部分は星印を

付けるなど、本物の記者からメモの取り方の工夫を聞いて良かった」と感激した様子。

5年の西江壹希君(10)は「社会科での新聞作りに役立たい」と話した。児童の保護者で、講座を見学した伊禮ケイ子さんは「子どもにとつていい刺激になり、大人も勉強になった」と語った。

講師は、佐藤ひろこ(金城綾乃NIE推進室記者)が務めた。